

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社キョウコーレーション様 一宮工場新築工事 愛知県一宮市今伊勢町馬寄字藤池1-6、宇吉田浦1-10	階数	地上4F
建設地		構造	S造
用途地域	法第22条区域、市街化調整区域	平均居住人員	30人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,000時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年5月 予定	評価の実施日	2016年9月21日
敷地面積	8,746 m ²	作成者	大和ハウス工業株式会社
建築面積	2,397 m ²	確認日	
延床面積	6,759 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準値 BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 85%

③上記+②以外の 85%

④上記+ 85%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目

①地球温暖化への配慮	3.5	③敷地内の緑化	1.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	10.4%
②資源の有効活用	3.3	④地域材の活用	1.0	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0%

＜外装材に使用した地域性のある材料＞
なし

＜建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材＞
なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音			2.5	0.15				2.5
1.2 遮音			3.0	0.40				2.6
1 開口部遮音性能			1.8	0.40				
2 界壁遮音性能			1.0	0.60				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	0.40				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音			3.0	0.20				
2 温熱環境								
2.1 室温制御			2.1	0.35				2.1
1 室温			2.1	0.50				
2 外皮性能		適切な断熱施工	2.0	0.38				
3 ゾーン別制御性			4.0	0.25				
2.2 湿度制御			1.0	0.38				
2.3 空調方式			1.0	0.20				
			3.0	0.30				
3 光・視環境								
3.1 昼光利用			2.4	0.25				2.4
1 昼光率			2.4	0.30				
2 方位別開口			2.0	0.60				
3 昼光利用設備			3.0	0.40				
3.2 グレア対策			3.0	0.30				
1 昼光制御			3.0	1.00				
3.3 照度		3階事務室で700lx	4.0	0.15				
3.4 照明制御			1.0	0.25				
4 空気質環境								
4.1 発生源対策			3.5	0.25				3.5
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を使用	4.0	0.50				
			4.0	1.00				
4.2 換気			1.6	0.30				
1 換気量			3.0	0.33				
2 自然換気性能			1.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮			1.0	0.33				
4.3 運用管理			5.0	0.20				
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御		全館禁煙	5.0	1.00				
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ			2.9	0.40				2.9
1 広さ・収納性		3階事務室の執務スペースが13.728m ² /人	2.3	0.40				
2 高度情報通信設備対応			5.0	0.33				
3 バリアフリー計画			1.0	0.33				
1.2 心理性・快適性	独自		1.0	0.33				
1 広さ感・景観			3.6	0.30				
2 リフレッシュスペース		執務スペースの110%がリフレッシュスペース	3.0	0.33				
3 内装計画		建物全体のコンセプトや機能が明確であり、内装計画に反映している	4.0	0.33				
1.3 維持管理			4.0	0.33				
1 維持管理に配慮した設計		トイレは清掃しやすい内装材、外部の鉄部にキキ処理等	3.0	0.30				
2 維持管理用機能の確保			4.0	0.50				
			2.0	0.50				
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震			2.7	0.31				2.7
1 耐震性			3.0	0.48				
2 免震・制振性能			3.0	0.80				
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.20				
1 躯体材料の耐用年数			2.9	0.33				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		3.0	0.23				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		タイルカーペット20年、塩ビクロス(下地共)20年、化粧石膏ボード30年	2.0	0.23				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			5.0	0.09				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.08				
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.15				
			3.0	0.23				
2.4 信頼性			1.6	0.19				
1 空調・換気設備			3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備			2.0	0.20				
3 電気設備	②		1.0	0.20				
4 機械・配管支持方法			1.0	0.20				
5 通信・情報設備			1.0	0.20				
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり			3.1	0.29				3.1
1 階高のゆとり			3.4	0.31				
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率 工場用途:0.12、事務所用途:0.45	3.0	0.60				
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.40				
3.3 設備の更新性			3.0	0.31				
1 空調配管の更新性	②		3.0	0.38				
2 給排水管の更新性			3.0	0.17				
3 電気配線の更新性			3.0	0.17				
4 通信配線の更新性			3.0	0.11				
5 設備機器の更新性			3.0	0.11				
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.22				

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
		Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39	-
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.56		5.0	0.04	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.27	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				4.5	0.41	-	-	4.5
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI=0.80		4.5	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	
4 効率的運用				2.5	0.28	-	-	2.5
集合住宅以外の評価				2.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.8	0.63	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	-	陶磁器質タイル、ビニル系床材、フリーアクセスフロア	5.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		内装が乾式工法で分別容易、設備との錯綜を回避、OAフロア採用	5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.68	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			ODP=0.01未満かつ、GWP=50未満の断熱材を使用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮				3.5	0.33	-	-	3.5
1 ライフサイクルCO2排出率85%				3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮				5.0	0.25	-	-	
2.1 大気汚染防止				2.0	0.50	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.25	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音	独自			3.0	0.50	-	-	
2 振動	独自			3.0	0.50	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明の立ち外に漏れる光への対策			光害チェックリストを過半満たす、広告物照明がない	5.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

(仮称)株式会社キングコーポレーション様 一宮工場新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:10.44%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)株式会社キングコーポレ

計画上の配慮事項	
総合	室内環境及び周辺環境へ配慮した計画を目指している。館内においては、省エネを基本としており、高効率LED照明の採用、可能な個所においてはセンサー制御照明の採用、また空調においては、高効率空調機器を採用している。また、「エネルギーの見える化」を計画しており、電力・水道の使用状況をモニターで集中管理する。 周辺地域に対しては、敷地内空地を可能な限り緑地とし、市の木である「ハナミズキ」等の樹木を植樹する。
Q1 室内環境	断熱材の強化により外皮性能を上げているなど、温熱環境に配慮している。 ブラインドを採用するなど、光・視環境に配慮している。 全館禁煙とするなど、空気質環境にも十分配慮している。
Q2 サービス性能	執務スペースに対して十分なリフレッシュスペースを確保し、快適なオフィス生活に配慮している。 補修必要間隔の長い仕上材を採用するなど、建物の耐用性・信頼性に配慮している。 建物全体、内装計画、照明計画について、機能、コンセプトが明確化している。
Q3 室外環境(敷地内)	自生種を主に植栽しており、自生種の保全に配慮した緑地づくりをしている。また、敷地境界沿いに緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。 空地率を大きくすることにより暑熱環境に配慮している。 見通しの良いフェンスを設けて防犯性に配慮している。 建物利用者が設計プロセスへ参加しており、利用者ニーズに配慮している。
LR1 エネルギー	断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。 LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	自動水栓や、節水型便器などの省水型機器を用いるなど、水資源を保護している。 また、フリーアクセスフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率を88%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。 広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。 燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。 隣棟間隔指標を大きくし敷地外の熱的な影響を低減している。
その他	